

CASBEE_Sapporo2014v1.0
(名称)札幌創世1.1.1区本1階1地区第1棟事務用棟再開発事業建設建築物新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階			重点評価項目: W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雪処理				
配慮項目	重点評価項目			環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	W	G	S		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									3.9
Q1 室内環境						0.40			3.9
1 音環境					4.2	0.18			4.2
1.1 騒音				室内騒音は45dB以下	4.0	0.40			
1.2 遮音					4.7	0.40			
1 開口部遮音性能				カタログ値よりT-2以上と判断	5.0	0.74	3.0		
2 界壁遮音性能				オフィス界壁をDr-40で想定	4.0	0.26	3.0		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				オフィス部分の床:タイルカーペット+OAフロア+スラブ厚150mmで評			3.0		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				オフィス部分の床:タイルカーペット+OAフロア+スラブ厚150mmで評			3.0		
1.3 吸音				天井:若綿吸音板、床:タイルカーペットで2面吸音	4.0	0.20	3.0		
2 温熱環境					3.9	0.38			3.9
2.1 室温制御					3.5	0.50			
1 室温					3.0	0.41	3.0		
2 外皮性能	W			ガラスU値=3.0以下、外壁その他U値=1.0以下、ガラスSC値=0.5程度	4.0	0.23	3.0		
3 ソーン別制御性				ゾーン別に冷房、暖房が選択可能なシステムを採用	4.0	0.36			
2.2 湿度制御				加湿、除湿機能あり、湿度調整も可能なシステムを採用	5.0	0.20	3.0		
2.3 空調方式				ホール部分で床輻射暖房を採用	4.0	0.30	3.0		
3 光・視環境					2.6	0.16			2.6
3.1 昼光利用					2.2	0.31			
1 昼光率					1.0	0.59	3.0		
2 方位別開口									
3 昼光利用設備	W			トップライトを採用	4.0	0.41	3.0		
3.2 グレア対策					2.0	0.30			
1 昼光制御	W				2.0	1.00	3.0		
3.3 照度				全般照明で照度750lxを確保	4.0	0.15	3.0		
3.4 照明制御					3.0	0.25	3.0		
4 空気質環境					4.3	0.28			4.3
4.1 発生源対策					5.0	0.50			
1 化学汚染物質				全般的にVOCの放散量が少ない材料を採用	5.0	1.00	3.0		
2 発熱体対策									
4.2 換気					3.3	0.30			
1 換気量					3.0	0.39	3.0		
2 自然換気性能					3.0	0.23	3.0		
3 取り入れ外気への配慮				空気取り入れ口は汚染源のない方向、各排気口は6m以上離して設置	4.0	0.39	3.0		
4.3 運用管理					4.0	0.20			
1 CO ₂ の監視				各箇所でCO ₂ 監視を整備	5.0	0.50			
2 喫煙の制御					3.0	0.50			
Q2 サービス性能						0.30			4.0
1 機能性					4.0	0.40			4.0
1.1 機能性・使いやすさ					3.2	0.40			
1 広さ・収納性				オフィス貸室はOAフロアとしレベル4に該当	3.0	0.22	3.0		
2 高度情報通信設備対応					4.0	0.22	3.0		
3 バリアフリー計画					3.0	0.57			
1.2 心理性・快適性					4.3	0.30			
1 広さ感・景観				天井高2.7m以上を確保。	4.0	0.22	3.0		
2 リフレッシュスペース					3.0	0.22			
3 内装計画				模型、パース等で検討	5.0	0.56			
1.3 維持管理					5.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計				各用途の便所等の仕上げ(タイル等)についてはメンテ性に配慮	5.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保				清掃関係諸室を十分に確保	5.0	0.50			
3 維持管理業務									
2 耐用性・信頼性					4.1	0.30			4.1
2.1 耐震・免震					4.0	0.50			
1 耐震性				重要度係数1.25相当	4.0	0.80			
2 免震・制振性能				制振装置を設置	4.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数					3.8	0.30			
1 躯体材料の耐用年数					-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	W			耐久性が高いガラスカーテンウォール、PC外壁を採用	4.0	0.25			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	W			床仕上げはカーペット、石材等を使用。更新間隔は11年以上と判断	4.0	0.13			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	W			屋外露出ダクト、厨房排気ダクトについてはステンレスダクトを採用	5.0	0.13			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	W				3.0	0.25			
6 主要設備機器の更新必要間隔	W			機器の更新は16年以上と想定	4.0	0.25			
2.4 信頼性					4.8	0.20			
1 空調・換気設備				すべての項目に該当	5.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				すべての項目に該当	5.0	0.20			
3 電気設備				非発、無停電設備を設置。受電二重化を実施。電源設備は2階以上に	5.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				耐震Sクラスを確保	5.0	0.20			
5 通信・情報設備				通信手段の多様化、引き込み2ルート、精密機器の浸水対策を実施	4.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.9	0.30			3.9
3.1 空間のゆとり					5.0	0.30			
1 階高のゆとり				階高4.15m以上を確保	5.0	0.39			
2 空間の形状・自由さ				オフィス部分の壁長さ率0.1以下	5.0	0.61	3.0		
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	3.0		
3.3 設備の更新性					3.8	0.40			
1 空調配管の更新性				構造材を痛めずに補修、更新可能	3.0	0.20			
2 給排水管の更新性					4.0	0.20			
3 電気配線の更新性					3.0	0.10			
4 通信配線の更新性					3.0	0.10			
5 設備機器の更新性				マシンハッチ等を設け、建物機能を維持しながら更新、補修が可能	5.0	0.20			
6 バックアップスペースの確保				バックアップスペースは計画的に設置	4.0	0.20			

